

新年  
特集号

# 自治労福島

自治労福島県本部機関紙

E-mail:jichou@jichiro-fukushima.or.jp

第829号  
2022年(令和4年)  
1月5日  
福島市荒町1-21  
自治労福島県本部  
発行人 澤田 精一

## 家庭版

機関紙は読んだらご家庭へ

# 謹賀新年

WINTERNAL/SUMMERONIPS SPRINGEAKS/AUTUMNUEINIA WINTERNAL



自治労福島県本部  
中央執行委員長  
澤田 精一

新年あけましておめでとうございます。新型コロナウイルスの感染が国内で確認されてから2年が経過しました。皆様には地域医療・保健衛生等の現場、各種相談や給付窓口業務など、昼夜を問わず奮闘されていることに深い敬意と感謝を申し上げます。また、東日本大震災・原発事故から10年10ヶ月が経過し、この間も台風・地震等の甚大な自然災害が発生しました。今年はコロナ禍が収束し、災害の無い年であることを心から強く願います。

頻発する自然災害、コロナ禍により社会機能の脆弱性が顕在化し、公共サービスの重要性が認識されました。今、公共サービスはギリギリの人員で支えられています。業務量に見合う人員配置を求め、賃金・労働条件の改善、長時間労働の是正など、働き方改革に取り組むことが必要です。また、定年引上げが2023年度から施行されます。単組は、対応方針の確定、労使交渉の実施など、早急に取り組む必要があります。2022春闘がスタートします。職場の声を集め、全組合員が参加し、春闘勝利をめざしましょう。

今年6月から新制度による団体生命共済の募集が始まります。組合員による助け合い制度の自治労共済を推進し、組合員全員の団体生命共済加入をめざし、組織加入県維持をしていきましょう。

昨年は郡山市、いわき市、福島市、二本松市、相馬市の市長選、更に第49回衆議院選挙1〜4区において、推薦・支持候補者の当選を勝ち取りました。重ねて御礼を申し上げます。

コロナ禍で明らかになったように、今求められているのは新自由主義的な弱者切り捨てではなく、「公」の役割を再構築することです。地方自治と公共サービス労働者の権利と生活を守るため、今年1月の伊達市長選「須田ひろゆき」氏、11月に任期満了を迎える福島県知事選をはじめとする各級自治体選挙での推薦候補者、そして7月の第26回参議院選挙で、自治労代表の組織内候補予定者「鬼木まこと」の圧倒的な勝利を組合員・単組・総支部・県本部が一丸となり勝ち取りましょう。

県本部は、2022春闘・確定闘争・各級選挙勝利、諸課題要求前進、自治労共済推進の先頭に立ち取り組む決意です。

結びに、組合員皆さまの県本部運動へのさらなる結果をお願いするとともに、ご健勝・ご多幸をご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とします。ともに頑張りましょう。

WINTERNAL/SUMMERONIPS SPRINGEAKS/AUTUMNUEINIA WINTERNAL



# 鬼木まことと自治労組織内候補予定者決意を語る

## 皆さんの想いや声を聞き、課題の解決や前進にむけて頑張る



決意を語る鬼木まこと  
自治労組織内予定候補者

公共サービスは今、大きな苦境の真ただ中にある。しかし、この苦境はけっして新型コロナウイルス感染症だけによるものではない。私たちが質の高いサービスを提供するために、根本的に変革しなければならないことがあるはずだ。今年、そして将来にむけて、何をどう捉え、何をどう変えていかなければならないのか。私たちがより良く働ける未来をめざして、第26回参議院議員選挙・自治労組織内候補予定者の鬼木まことさんが決意を語った。

○自治労組織内候補予定者には、どのようなお気持ち、お考えで決意されたのでしょうか。

**鬼木** 自治労出身の現職参議院議員・江崎孝さんが勇退される意思が固いということで、本部の四役で「参院選をどうたたかうか」という議論を続けていたのです。私は書記長でしたから、その議論に参加していました。組織内議員の役割は重要であり、議席を減らすような状況は絶対に避けなければいけません。そうした中で、最終的に私を擁立することが決まったというわけです。そして、私に決まったからには、「自治労組合員のためにがんばろう」「やるしかない」と気を引き締めました。

○現在、鬼木さんは全国の組合を回っていますが、どのようなことをお感じになりましたか。

**鬼木** 組合を回って意見交換をしながら現場状況を教えていただいています。新型コロナウイルス感染症が与えた影響は本当に大きいと実感しています。しかも、それまでの体制が万全だったわけではありません。コロナ禍になる以前から定員が減らされ、職場の統廃合は進み、公共サービスがどんどん細く小さくされてきたわけです。それでも、現場の組合員の皆さんが必死になって踏ん張りながら、頑張つて、なんとか職場を守ってきました。その状況下に

の新型コロナウイルス感染症の感染拡大が大きいのかかって、一気に無理が噴出した状況にあると受け止めています。

○全国を回られて、鬼木さんご自身が変わったことはありませんか。

**鬼木** 皆さんから現場実態を教えていただき、勉強させていただきました。課題認識がどんどん深まっています。また同時に、「これは絶対におかしい」「なんとかしないといけない」という想いも強くなっています。本当に皆さんの苦勞も聞いて、「人を増やせばなんとかなる」という答えが見えながら、そこにむかう方策という壁は高くても、まずは当局に訴え、認識を改めさせることからしか始まらないのではないかと思っています。

○組合員から「なぜ組織内議員が必要なのか」「政治闘争に取り組む必要があるのか」という声が聞くことがあります。今一度、その必要性についてお聞かせください。

**鬼木** そうした声は昔からよくあって、特に若年層には、政治闘争や選挙闘争に対して忌避意識が高い傾向があると言われています。ただ、一人ひとりに日々の仕事や暮らしの中で、「私はこう考える」「私はこれをやりたい」ということがあっても、現場だけで実現するのはなかなか難しいと思います。そのためには、仕事の中心を国を回している人が皆さんの想いを国会をはじめとする議会で代弁し、国会等に反映する必要があると思います。

○「公共サービスに人が足りない」という課題を解決するためにも、組織内議員は必要不可欠ですよ。

**鬼木** もちろんです。皆さんか

ら伺った課題を受け止めて、その解決にむけて議会の場で発信することこそ、組織内議員の役割だと思います。そして今、最も大きな現場の課題は人員の問題です。そうした課題を労働組合の皆さんと連携して取り組んでいくのが組織内議員です。私はそうした役割を担う所存ですし、議会の場でしっかりと訴えていきます。

○今年7月に予定されている第26回参議院選挙にむけた決意をお願いします。

**鬼木** 全国の組合の皆さんとお話して、脆弱な公共サービスの現場の姿が改めて明らかになりました。それをなんとか支えているのは、組合員の皆さんの努力、奮闘、献身性です。そうした皆さんの努力や奮闘に応える施策や政治にはなっています。

本来であれば、当局がもっと責任感を持って職員の方々を守るべきなのですが、そうした当局は「くわすかで腹立たしいです。ただ一方で、当局にその責任を気づかせることも労働運動の役割だと思っています。そして、労働運動と連携・連動して議会で取り組んでいくのが組織内議員の役割です。その役割をまっとうすべく、ぜひ議会の場で力を発揮できるように頑張っていきたいと思っています。

○最後に、組合員の皆さんにメッセージをお願いします。

**鬼木** 組織内議員は組合員の皆さんに押し上げていただく議員です。組合員の皆さんの想いや声をしっかりと聞き取っていきます。そして、組合員の皆さんの課題の解決や前進にむけて努力をします。皆さんとお話をして、一緒に考えて、議会の場で頑張る、そういう存在になりたいです。どうぞよろしくお願いたします。

### 鬼木まこと プロフィール

- 1963年 福岡県筑紫野市生まれ
- 1976年 福岡県筑紫野市立二日市小学校卒業
- 1979年 福岡県筑紫野市立二日市中学校卒業
- 1982年 福岡県立筑紫高等学校卒業後  
福岡県庁入職  
県税事務所(徴収等)、保健所(環境・公衆衛生)、総務事務センター(福利厚生)などを担当
- 1989年 福岡県職員労働組合 青年部長  
自治労福岡県本部 青年部書記長
- 1996年 福岡県職員労働組合 筑紫支部長
- 2005年 福岡県職員労働組合 執行委員(労安部長)
- 2006年 福岡県職員労働組合 副委員長
- 2010年 福岡県職員労働組合 書記長
- 2012年 福岡県職員労働組合 委員長
- 2014年 自治労中央本部 組織対策局長
- 2015年 自治労中央本部 総合公共民間局長
- 2019年 自治労中央本部 書記長
- 2021年 立憲民主党参議院比例第15総支部長

### 定年引き上げ 当局とスケジュールの確認と協議開始を

自治労本部八巻労働条件局長(福島市職労出身)に、本部での2年間の組織強化・拡大の取り組みと重点課題である定年引き上げについて伺った。



八巻労働条件局長

○組織の現状や今後、県本部・単組で取り組んでいただきたいことは。

**八巻局長** 私が強化拡大局長として着任してから、間もなくして新型コロナウイルスの感染拡大により、これまでやってきた日常の組合運動に制限がかかり、従前の取り組みが出来なくなりました。ただでさえ、自治労組合員は毎年1万人以上減少し組織拡大・強化が課題となる状況で、これまでの運動からの切り替えが上手く出来た単組、運動が止まってしまった単組に大きく分かれてしまっています。そのような中でWebも活用しながら、各県本部、単組の情報を取り取り、様々な工夫をして新たな運動を行ったり、チャレン

ジしている単組の状況を発信し、コロナ禍であっても組織の弱体化につながるような様に一緒に考え、アドバイスをしました。コロナ禍での運動がやりにくくなった半面、これまでの運動を見直し、真に必要な活動が何なのか、組合員が求めているものは何なのか?に向き合う良いきっかけになったと思います。

各単組においては、現場の組合員、職員の現状をしっかりと向き合い、今までの運動にとらわれず、いろんなチャレンジをして欲しいと思いますし、県本部として、そういった単組の運動にしっかりと寄り添い、単組が安心して運動が出来る様に、先頭になつて取り組みむことが必要だと思います。

○昨年9月から労働条件局長に就任しましたが、具体的な任務は。

**八巻局長** 労働条件や労働安全衛生に係る各県本部からの問い合わせへの対応や情報提供。各闘争期の方針の策定、各県への情報の提供、公務員連絡会、地公部会等会議への出席、総務省との交渉等が日常の業務です。

今までの人生では足を運ぶこと

がなかった、人事院や総務省に行き、交渉や要請行動を行ったりもします。その合間で、各県本部や県本部内評議会等での学習会の講師や本部内の様々な会議への出席と、労働条件局長となり、あつという間の4カ月でした。

### 八巻局長の1日のスケジュール

- 9:00 出勤
- 9:30 労働局：局会議  
(当面の闘争方針の議論等)
- 13:30 人事院と協議  
(定年引き上げ関係)
- 16:00 会計年度任用職員の要請行動  
に向けた打ち合わせ

○重点課題である定年引き上げと単組での取り組みについて

**八巻局長** 2023年から開始となる制度ですが、2022年度中には当該職員への制度の説明、本人が60歳以降どのような働き方を望むかの意思確認をしなければなりません。しかし、全国的にも今年の確定闘争の中で当局と具体的な制度内容の協議に入れている単組はほとんどありません。

制度の内容については、既に総務省から示されています。条例の例は2、3月になりますが、単組でそれまでに協議をしなければならぬ事項は明らかです。①60歳以降、高齢者の働き方(職場、仕事内容等)について②役職定年の範囲について③新規採用の計画的な採用について④再任用者の賃金改善⑤高齢者部分休業の条例化と活用。この5点と合わせて、再任用者を含む、60歳超の方々の組織化にもしっかりと取り組んでいく必要があります。

制度開始にあたって、高齢職員や同じ職場で働く若年層職員の意見や不安を集約し、その声を反映した制度となる様、当局と早期にスケジュールをしっかりと確認し、協議をスタートさせることをお願いたします。



### 自治労の統一と団結の力の発揮にむけて



立憲民主党参議院比例第15総支部長  
自治労本部前書記長 **鬼木まこと**

皆さん、あけましておめでとうございます。  
今年7月に実施予定の第26回参議院議員選挙（全国比例区）の自治労組織内候補予定者の「鬼木まこと」です。

昨年8月の自治労第95回定期大会で書記長の任から離れ、9月からは候補予定者としての取り組みに専念しています。

この間、ウェブも含め、県本部・単組の皆さんと意見交換を行う機会を多く作っていただき、職場での課題を共有させていただいてきました。多くの職場で共通する課題は、「圧倒的に不足している定員配置」「保健師・保育士・看護師、さらには土木職など、専門職・技術職の確保」「会計年度任用職員のさらなる処遇改善」「公共民間職場における労働条件の劣化と雇用の安定」の4点に概ね集約できるのではないかと思います。

いずれも新たに生じたものではなく、従前からあった課題が、新型コロナウイルス感染症への対応が長期化する中で、より一層鮮明となり、深刻になったということだと受け止めています。感染症がより鮮明にした公共サービスの必要性。しかしそれに反し、現在の体制は極めて脆弱であり、それを懸命に支える職員のみ皆さんの献身的な奮闘がなければ成り立たない、あるいは、職員に精神的、肉体的な犠牲を強いることでしか「公共サービス」の提供ができない。今日の現場実態はやはり間違っている。絶対に変えなければならない、あらためて、そう強く考えています。

今日の政治状況・社会状況を変えていくため、そして、私たちが、誇りと希望をもって、働き続けることができる「健全な公共サービス」を取り戻すため、自治労の仲間の皆さんの多くの声と力を私「鬼木まこと」にお寄せください。

今年もどうぞ、よろしく願いいたします。

### 公共サービスの「誠」のために



全日本自治団体労働組合  
中央執行委員長 **川本 淳**

あけましておめでとうございます。  
長きにわたるコロナ禍のもと、社会生活基盤を支えるために日夜奮闘している仲間の皆さんに、心より感謝を申し上げます。

長引くコロナ禍の中で、自治労組合員の多くは、それぞれの職場において、住民が安心して生活するために不可欠な公共サービスを担う「エッセンシャルワーカー」として、この未曾有の事態に対応し続けてきましたが、改めて、担い手も体制も圧倒的に不足していることが浮き彫りとなりました。

そのため、自治労は2021春闘から、コロナ禍で明らかとなった地域公共サービスの重要性、そこで働く労働者の処遇改善の必要性を世論に強く訴えるため「公共サービスにもっと投資を！」キャンペーンをスタートしました。2022春闘においても引き続きこの取り組みを展開し、改めて、誰もが平等にサービスを受けられ、今回のような社会的危機に対応しうる地域公共サービスの再構築に必要な人員と財源の確保、働く者の生活改善へとつなげていく決意です。

昨年10月の第49回衆議院選挙では、自民党が単独で「絶対安定多数」を確保し、野党第一党である立憲民主党は改選前議席を減らすという残念な結果となりました。一方、公務員の人員・人件費2割削減等を公約に掲げる日本維新の会が大きく議席を伸ばし、私たちを取り巻く政治状況は厳しさを増すと認識する必要があります。また、いわゆる「改憲勢力」が衆議院で発議に必要な3分の2を超えることになり、今後憲法改正にむけた議論が加速することが懸念されます。

自治労として「中道・リベラル勢力」の拡大の取り組みを改めて強化するとともに、地方自治と公共サービス労働者の権利と生活を守るため、7月の第26回参議院選挙において、私たちの代表である組織内候補予定者、前書記長である『鬼木まこと（誠）』の圧倒的な勝利にむけ、全国の仲間の皆さんと一丸となり、たたかってまいります。公共サービスの「誠」のために、ともにがんばりましょう。

### 希望の持てる一年に



参議院議員  
**吉田ただとも**

新年おめでとうございます。  
昨年大変お世話になり、御礼申し上げます。衆議院選挙では、立憲民主党公認・支援候補へのご支援に心より感謝申し上げます。

岸田政権は、「分配」「新しい資本主義」の名の下に、総裁選時の発言を後退させ、格差拡大を助長しています。2年間のコロナ対策で浮かび上がったのは、公務公共サービスの切り捨てによる危機対応力の低下でした。野党第一党の一員として、立憲民主党新執行部の下、国会内外の取り組み強化に努めて参ります。

今後国会では、岸田総理はじめ一部野党が憲法改正を公言しており、警戒が必要です。改憲阻止のため、本年7月の参議院議員選挙では全国比例「鬼木誠」さんはじめ同志の勝利に向けて、皆様方とともに全力をあげる決意です。

本年が皆様方にとって幸多き年、希望の持てる年になりますよう、祈念申し上げ、年頭のご挨拶にさせていただきます。

### 「鬼木まこと」さんの必勝を!



参議院議員  
**岸 まきこ**

明けましておめでとうございます。  
参議院議員の岸まきこです。

日ごろのご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。  
昨年は、8月に過去最大の感染者数を記録するなど、新型コロナウイルス感染症の対策に奔走した一年でした。現在も世界的にオミクロン株が拡大するなど予断を許さない状況にあり、引き続き、水際対策、医療体制の整備などしっかり行うよう政府に求めます。

自治労組合員の皆様が働く公共サービス職場は、コロナ対策の最前線である保健所や医療機関、ワクチン接種、介護や保育、さらには、生活者や事業者支援など、地域に暮らす人々を支える重要な役割を担っています。国は様々な制度・政策をつくるもの、住民へサービスを届けるのは皆様です。引き続き、組合員の皆様が働きやすい職場をめざし、取り組んでまいります。

本年7月、第26回参議院議員選挙が行われます。国政へ意見反映するためにも「鬼木まこと」さんの必勝を何としても勝ち取らなければなりません。そのために全力を尽くします。

結びに、組合員の皆様のご多幸を願い、年頭のご挨拶とします。

### さあ! 7月、政治決戦です。



参議院議員  
**江崎 孝**

明けましておめでとうございます。  
オミクロン株の感染拡大が心配される中で2022年が明けました。中国での初感染から数えると足掛け3年も人類は新型コロナに振り回されていることとなります。

昨年の総選挙の結果を受けて枝野立憲民主党代表が辞任しました。党の設立にかかわった者の一人として、寂しく残念です。私が事務局長を務めるグループ「サンクチュアリ」も役員体制を刷新し、逢坂・小川両衆議院議員が副会長に就任してスタートを切りました。その最初の取り組みが代表選挙となったわけです。

サンクチュアリは逢坂誠二さんを推薦し戦いました。自治労組織内議員の皆さんには大変なご迷惑をおかけすることになり、心から感謝申し上げます。逢坂候補が決選投票に残ることができたのもそのご支援があったからこそです。本当にありがとうございます。

泉新代表のもと、選挙を戦った逢坂、西村、小川の面々がそれぞれ代表代行、幹事長、政審会長となり党が船出することになります。さあ! 鬼木まこと必勝に向け一致団結して頑張りましょう。

「鬼木まことと青年女性ネットワーク」の取り組みとして、県本部青年部・女性部秋季学習会とあわせて、2021年11月27日（土）に会津若松市「会津若松ワシントンホテル」にて学習会を開催した。



自治労は、各県本部から女性代表者を1名選出し「鬼木まこと」とがらんばる女性ネットワーク」を設立している。これまで3回の会議が開催され、政治の役割と重要性、自治労組織内候補の必要性や政治活動を組合活動にどうつなげていくかについて、各県本部からの事例報告や大学教授等からの講演を通じて意見交換を行ってきた。

また、本部から各県本部においても「鬼木まこと」とがらんばる女性ネットワーク」の設立の要請があり、福島県本部は、青年と一体となった取り組みを行うこととして、「鬼木まことと青年女性ネットワーク」を設立した。

岸議員からは「私たちは自治労が抱える課題を解決するためには、自治労組織内議員と協力議員の取り組みが必要である。中央本部で共に働いた鬼木まことさんは信頼できる方。必勝のために各単組でのさらなる取り組みをお願いしたい」と締めくくった。

組織内参議院議員の岸まきこさんから「組合活動と政治」私が「議員」になることを決断した理由」と題して講演をいただいた。

岸議員の出身である、北海道栗沢町（現・岩見沢市）の役所時代からの組合活動、北海道本部空知地方本部、中央本部役員を務めた経験から、国議員になることを決意したきっかけを話していた。また、「夫婦ともに市役所職員の場合、女性職員に対する退職勧奨があった。」などの経験談を話されているときには、大きくうなずく参加者が多数いた。



講演をする岸まきこ議員

### 県本部 鬼木まこと 青年女性ネットワークを設立



# 新春お年玉クイズ



C							
	1		3		6		8
			A				
	9	2				10	
	11				7		
		B		E	F		
	12			5			
			4				
							D
	13						

■問題  
タテのカギ、ヨコのカギをつないでパズルを完成させてください。AからFまでの6つの枠に入った文字をAから順に並べると答え(言葉)になります。

## クイズの答え

A B C D E F

--	--	--	--	--	--

## 抽選で豪華景品が当たる!

- 自治労働福島県本部賞  
ギフト券5万円分 2本
- こくみん共済 coop 全労済自治労共済賞  
カタログギフト5千円相当 10本
- 東北労金福島県本部賞  
カタログギフト1万円相当 2本
- こくみん共済 coop 福島推進本部賞  
図書カード5千円 4本
- 自治労働福島県本部お年玉賞  
クオカード千円 30本

### タテのカギ

- AT
- ⇔厚い・濃い
- メディア。広告○○○○
- 牛・豚の切り身に卵、パン粉をつけて揚げた食べ物
- 短い中に心理やすぐれた考えを含ませた言葉
- ・エム・シー・エー
- 歌い手に対し、三味線をひく人
- 実際とかけ離れた役に立たない理論

### ヨコのカギ

- 過度の労働。働き過ぎ
- 花が開くこと
- 身軽な服装
- ある域に達すること。結論に○○○○する
- とキリギリス
- 薬品などを使い一時的に感覚を失わせること
- 地上に起こる異変。天変○○
- 競泳の折り返す素早いターン法

寅(とら、いん)は十支の一つ。通常十二支の中で第三番目で、前は丑、次は卯。「寅」は「動く」の意味で、春が来て草木が生ずる状態を表している。後に、覚えやすくするために動物の「虎」が割り当てられた。

寅年は参議院選挙が行われ統一地方選挙を1年後に控える年である。元朝日新聞記者の石川真澄氏が名付けた言葉に「寅年現象」というのがある。寅年の参議院選挙は翌年に統一地方選挙を控えており、地方政治家たちは

## 寅歳と参議院選挙

自分と距離が近い人物が参議院議員になることができれば、来年の統一地方選挙で自分たちが勝利しやすくなるため、参議院選挙で力を入れて運動するようになる。地方政治家たちが参議院選挙に力を入れることによって、参議院選挙の投票率が上昇するとされる。

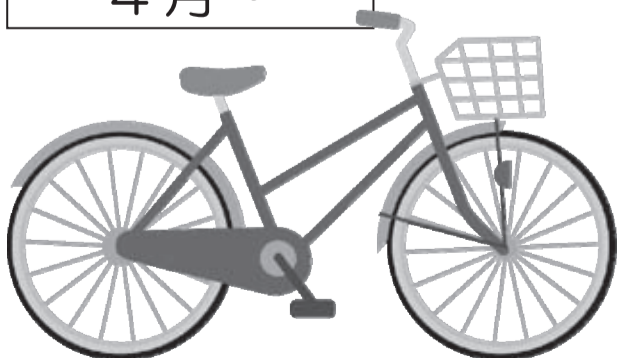


## 応募方法

- ハガキに、①クイズの答え  
②単組名(県職は支部名)  
③職場名  
④氏名  
を明記してご応募ください。  
※住所不要。景品は単組にお渡しします。
- 応募先 〒960-8042 福島市荒町1-21  
自治労働福島県本部
- 締切 1月31日(月) 消印有効

2022年  
4月～

## 自転車保険・共済加入義務化!



「福島県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が昨年10月に制定されました。これにより、自転車事故に備える自転車保険・共済への加入が、2022年4月より義務化されます。自治労働共済では、次の3通りの方法でこれに対応することができます。

### 《対応方法》

- ①じちろうマイカー共済に「自転車賠償責任補償特約」を付帯する。
- ②住まいる共済に特約「個人賠償責任共済」を付帯する。
- ③(抜本改正後の)団体生命共済に特約「個人賠償責任共済」を付帯する。※2022年10月発効

自治労働福島県本部共済推進委員会